

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大学名	千葉大学
整理番号	A②-1
事業名	植物環境イノベーション・プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A⁻	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断された。
コメント 本事業は、千葉大学（園芸学部及び大学院、工学部及び大学院、国際教養学部等）、中国・浙江大學（コンピュータサイエンス学院）、清華大學、韓国・延世大學校（人文芸術学院）との共同で実施された。都市農業・都市緑化において、サービス・デザインの手法を取り入れ、都市の農業や緑化において、施設園芸・植物栽培環境プログラムにデザイン・イノベーション・プログラム、食品流通経済、都市公園政策等、農業の6次+4次産業を担う人材育成を目指したものである。 事業展開では、実践型として38種のプログラムの実施と修士課程17科目を開講し、当初の計画を大きく上回っていることから、SDGsの取組に直結する人材育成が期待される。また、本プログラムが契機となり、研究+実践型人材育成プログラムには日中韓で30以上の大学が参加し、新産業創造のリーダー的存在である中国及び韓国の大企業のワークショップには1,400名を超える学生が参加する等、注目度が高い点は評価できる。 一方で、単位取得を伴う交流期間3か月以上の交流を行う学生数という点においては、当初の計画に比し、派遣及び受入学生の割合は極めて低く、ダブルディグリー（DD）も同様に少なく、学生への実質的な教育効果の検証が必要である。また、本事業における植物工場にかかる経費と、プログラムの理念、講義科目、実践プログラム科目の割合のバランスに齟齬がみられ、植物研究とデザイン研究の融合についての目的が明確になっているとは言えない。プログラムの理念はユニークで優れているものの、本事業の更なる実現と発展に向け、具体的なビジョンや財源確保等について引き続き努力が望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	